

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

令和2年度病害虫発生予報第3号(6月)
記

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
ファックス 0561-63-7820

令和2年度病害虫発生予報第3号(6月)

令和2年6月2日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	縞葉枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月下旬のヒメトビウンカの発生量は平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・留意事項

イネいもち病は気温が20~25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生量が増加します。特に、梅雨初期頃に高温で推移すると発生が早まり、その後の発生量も多くなるため、前年の発生量が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

ムギで増殖したヒメトビウンカがイネに飛来することが考えられます。ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介するため、本病に抵抗性を持たないイネ品種では、特にヒメトビウンカの防除に努めましょう。

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) による苗の食害が目立つほ場があります。昨冬は暖冬であったことから越冬量も多かったと推測されます。移植後2週間程度までは浅水管理し、貝の発生が多い場合は薬剤防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	+
ナシ	黒星病	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量はほぼ平年並	- ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	±
	黒星病	やや少ない	県全域	4月の発病枝率はやや少ない 6月の降水量はほぼ平年並	- ±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや多い	尾張地域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は尾張地域ではやや多い	±
平年並		西三河及び東三河地域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は東三河地域では平年並	±	

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	±
	黒とう病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	±
	チャノキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	+
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	±
	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫密度はやや多い フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数はやや多い	+

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

ファンタジスタ顆粒水和剤、ストロビードライフロアブルなどで防除しましょう。

[ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ]

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

[モモ・モモハモグリガ]

サムコルフロアブル10やスタークル/アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

[ブドウ・べと病]

ランマンフロアブルやレーバスフロアブルなどで防除しましょう。

[カキ・炭疽病]

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

[カキ・角斑、円星落葉病]

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

5月28日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

・留意事項

まもなく梅雨を迎えます。降雨による病気の伝染に注意しましょう。

モモせん孔細菌病は昨年の発生が多かったことから、病原菌の越冬量が多いと推測されます。品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し防除しましょう。

ナシ黒星病が発病した葉や果実は取り除き、園外に持ち出して処分しましょう。

野菜

・留意事項

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

コナガの発生が多い地域があります。収穫残渣は本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

・留意事項

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

白さび病の被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>)、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台5月28日発表)

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%